



『ネギえそ条斑病の防除』

岡山県南部のネギほ場でネギえそ条斑病の発生が県内初確認され、岡山県病害虫防除所から特殊報が発表されました。その後も別のネギほ場で発生が確認されています。今後も発生し、被害拡大する恐れがありますので、防除をおこなってください。

《本病の症状》

はじめに葉身に不明瞭な退緑斑を生じ、その後紡錘形で白色～淡黄色のえそ条斑になります。病徴が進展すると病斑が癒合拡大し、大型のえそ条斑症状となり、葉が萎凋・枯死する場合があります。



ネギえそ条斑病の症状

《発生要因》

本病は、アイリス黄斑ウイルス(IYSV)による病害で、このウイルスを保毒したネギアザミウマによって媒介・伝搬されます。高温少雨でネギアザミウマの発生が多い場合や、タマネギ等その他被害野菜の残渣などから飛び込みで増える場合もあります。



ネギアザミウマ成虫体長
約 1.3 mm
写真提供 日本曹達(株)



ネギアザミウマによるかすれ症状

《防除》

本ウイルスに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を行います。多発すると防除が困難になるので、ネギアザミウマの発生を確認したら速やかに薬剤散布を行ってください。特に梅雨明け後は発生量が爆発的に増えるので注意してください。薬剤選択は、抵抗性害虫の出現を避けるため IRAC の異なる薬剤をローテーション散布してください。特にアザミウマ類は抵抗性ができやすいため注意が必要です。ネギは薬剤が付着しにくいいため、展着剤を加用して散布してください。

ネギ ネギアザミウマ及びアザミウマ類登録農薬の例 令和4年6月現在							
農薬名	希釈倍数及び 粒剤使用量	使用時期	使用回数	使用方法	有効成分		IRAC
					有効成分名	総使用回数	
スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン	4回以内	4 A
スタークル粒剤	6kg/10 a	生育期 収穫3日前まで	2回以内	株元散布			
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	クロチアニジン	4回以内	
ダントツ粒剤	3～6kg/10 a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布			
ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
ウララDF	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内		フロニカミド	3回以内	29
ファインセーブフロアブル	1000～2000倍	収穫3日前まで	2回以内		フロメトキン	2回以内	34
プレオフロアブル	1000倍	収穫3日前まで	4回以内		ピリダリル	4回以内	UN
コルト顆粒水和剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内		ピリフルキナゾン	3回以内	9 B